

呼吸器科

1) 後期研修の特徴

- 日本呼吸器学会認定施設である。
- 日本呼吸器内視鏡学会認定施設である。
- 呼吸器内科としては地域の中核をなしており、多岐にわたる呼吸器疾患全般について急性期から慢性期にいたるまで豊富な症例を経験できる。
- 呼吸器内科の対象疾患の内訳は呼吸器感染症、気道系疾患(気管支喘息、COPD)、腫瘍性疾患(肺癌)、びまん性肺疾患(各間質性肺炎)、呼吸不全・呼吸障害、環境、職業性疾患などで、多彩な呼吸器疾患を広く経験することができる。
- 職種を越えたスタッフ間の連携も良好で、呼吸リハビリ、呼吸ケアチームとしての院内活動、在宅酸素療法、非侵襲的陽圧呼吸器装着患者へのサポートなども積極的に行っている。

2) GIO

- 内科医としての基礎的な知識、技術の上に、多岐にわたる呼吸器診療に必要な臨床能力を身につけ、日本呼吸器学会専門医取得を目指す。

3) SBOs

- 全人的医療を実践するため、適切なチーム医療、医療連携を実践することができる。
- 指導医の指導の下に呼吸器疾患患者の最終診療責任者になることができる。
- 呼吸器学的理学所見を把握し、簡潔に要約できる。
- 呼吸器疾患の画像読影ができる。
- 呼吸器疾患の診断に必要な各種検査を施行してその解釈ができる。
- 気管支内視鏡検査を自ら実施し、観察、処置ができる。
- 呼吸機能検査を実施し、結果の解釈ができる。
- 胸腔ドレーンの挿入と管理ができる。
- 胸部聴診、理学所見、各種検査、画像所見などをもとに鑑別診断を行い、適切な診断を確定することができる。
- 酸素療法、人工呼吸器の適応・操作を理解し、適切な呼吸管理を実施できる。
- 慢性呼吸不全、悪性腫瘍の終末期医療を理解し、患者のニーズに即したターミナルケアが実施できる。
- 他科からのコンサルテーションに対し、適切に対応することができる。
- 呼吸器疾患救急患者について適切に対応できる。

4) Ls

- On the job training(OJT)が主体である。
- 初期研修医の指導を行う。
- 各種カンファレンスに参加する。
- 学会活動
 - 論文執筆：症例報告、臨床研究、依頼原稿などを執筆する。
 - 学会発表：日本呼吸器学会近畿地方会等で発表する。

<前期内科系コース>

- 1年次：関連各科のローテートまたは呼吸器内科専属

<後期内科系コース>

- 1年次・2年次：主治医として10名程度の患者を受け持ち、外来・救急を担当する。
- 3年次：1・2年次業務に加え後期内科系コース1・2年次の指導、初期研修医の指導などを行う。

5) Ev

- カンファレンスでの発表等で評価を受ける。

6) 大学医局との関連

- 京都大学呼吸器内科の関連施設

7) 将来の進路

- 選考により、武田病院グループの病院でスタッフとして勤務ができる。
- 大学院進学
- 京都大学呼吸器内科関連施設への紹介